

2007年3月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所より～



Mini-WANとは

三河港湾事務所で従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

○三河地域市町長懇談会 ○知多半島先っぽ「再発見ツアー！」

○宮本港湾空港部長講演(国際自動車コンプレックス研究会) ○清掃活動in早春の渥美半島

○エムワンカップ開催(職場サッカー大会) ○ソフトバレーで運動不足解消

○半田運河プロジェクトで屋形船が運航 ○みなとオアシスの制定に向けて

■シリーズ ～海と環境②～ 三河湾の現状について

☆CONTENTS☆



◎巻頭コラム◎ 三河港湾事務所長 田辺義夫



当事務所では「政府の温室効果ガス排出量削減の取り組みである、平成13年度比7%削減達成」を、昨年の4月に今年度の重要課題と位置づけました。

実施に当たっては事務所職員の創意工夫と意識改革により、夏季・冬季に於ける空調機の温度設定と使用時間の厳格運用、COOLBIZ、WARMBIZの奨励、室内照明節電、給湯使用の効率的な運用、公共交通機関の利用向上等に関して積極的に取り組んでおります。会議等にて御来訪されます皆様方にはご不便をお掛けしておりますが、ご理解を賜り継続実施していく所存ですので、今後ともご協力願いたいと思います。

この冬は全般に亘って暖冬で、温室効果ガス排出の影響を伝えるニュースが連日報道されると共に当事務所においては暖房に係る燃料消費の削減が顕著に表れ、地球温暖化現象を実感した次第です。

さて、Mini-WAN創刊号をご覧頂いた多くの方々から編集内容に関する要望や激励のメッセージが届けられました。

発行を担当する若手職員一同、反響の大きさに驚くと同時に今後のMini-WAN発行に向けて意欲的に取り組んでおり、事務所全体が活気に満ちています。

第2号は、読む感覚から見る感覚への取り組みとして盛り沢山の情報提供と写真や図表等を多用して編集させていただきました。今後も皆様方の声を反映させて精力的且つ積極的に情報発信をしたいと考えております。

これからもどうぞご愛読宜しくお願い致します。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



○「みなとオアシス」制度の制定に向けて

「みなと」は古くから地域の拠点として、くらしや産業を支え、特色ある歴史文化を育ててきました。

「みなと」を拠点とした住民参加型の「みなとまちづくり」として、地元の皆さんが「みなと」を地域交流拠点として活用する「みなとオアシス」制度が北海道開発局及び中国、四国、東北、北陸、九州地方整備局で制定されています。

一例を紹介しますと、現在使われなくなったフェリーターミナル等の港湾施設を活用したイベントや物販が行われ、「みなと」に活気が戻った事例が報告されています。

中部地方整備局管内では、蒲郡市が「みなとオアシス」制度の社会実験として、昨年10月15日に「海を知ろう」イベントを開催しています。このイベントではヨットの体験乗船、移動水族館などが企画され、海上保安庁のマスコットキャラクター「うみまるくん」や某テレビ局キャラクターも駆け付けイベントを盛り上げてくれました。今後、当局では事業推進されている他局の「みなとオアシス」制度を参考に制定に向けた作業を進めてゆきます。



○半田運河プロジェクトで屋形船が運航

2月23日～25日、半田市中心部を流れる半田運河で屋形船が運航され、黒壁の蔵が並ぶ運河の趣を引き立たせました。

半田商工会議所が市内で開催された「半田蔵のまち雛祭り」の一環として、かつて酢や酒、みそ、たまりを江戸に送り出す舞台となった半田運河の魅力づくりのために企画したものです。

屋形船が港と運河を仕切る「水門」を通り抜けると、両側に真っ黒な醸造蔵が現れ、今でも歴史的な景観が残る半田らしさが演出されました。参加者は、半田市観光ガイド協会メンバーによる半田の歴史などの説明に耳を傾け、ゆっくりと運河の風情を味わいました。



半田運河の護岸は、伊勢湾台風後に整備されてから築造後30年余り経過し老朽化が著しいため、歴史的な景観を考慮しつつ護岸の整備が行われてきました。

★シリーズ★

～海と環境②～ 三河湾の現状について

地形編

三河湾は面積約600km²、平均水深9.2mの浅い内湾で、知多半島と渥美半島に囲まれた位置にあります。面積では伊勢湾の約3分の1、東京湾の約1.7分の1となっています。また、中山水道と師崎水道の両水道によって三河湾は伊勢湾と通じており、中山水道の南にある伊良湖水道を経て太平洋に面しています。



☆最近のトピックス☆

○三河地域市町長懇談会

2月2日、豊橋市内のホテルにて、三河港にかかわりの深い6市町{田原市、豊橋市、御津町、蒲郡市、オプザバー(豊川市、岡崎市)}の首長や助役が出席し、「三河地域のみなとを考える市町長懇談会」を開催しました。この懇談会は、港湾所在市町が進める「まちづくり」、「みなとづくり」における港湾の役割や課題について考えを伺うとともに意見を交換し、今後の予算要求や港湾計画等に反映させることを目的としたものです。

懇談会では、三河港と周辺幹線道路とのアクセス整備や特定重要港湾への昇格について要望が出され、活発な意見交換が行われました。



○知多半島先っぽ『再発見ツアー！』

1月18日、知多半島南部の魅力を掘り起こすモニターツアー「知多半島・先っぽ再発見ツアー」が美浜町と南知多町内で開かれ、公募で選ばれた33人が観光施設や史跡などを巡りました。

これは、国土交通省港湾局の「みなと観光交流促進プロジェクト」の一環で、昨年11月に両町に協議会が発足したもので、今回のツアーは観光客のニーズの多様化に対応するため、両町の現状を把握しようと実施したものです。ツアーでは、食と健康の館で塩づくり体験、豊浜港市場でセリの見学など大盛況でした。知多半島南部には観光資源がたくさんありますので、皆さんも是非訪れてみてはいかがでしょうか。



○宮本港湾空港部長講演(国際自動車コンプレックス研究会)

2月2日、豊橋市民センターにて、国際自動車コンプレックス研究会による「港湾利用企業の産業防災」テーマに研究交流会が行われました。

当日は、中部地方整備局の宮本港湾空港部長が講演し、その中で、災害時に既存の施設を守ることが重要とされていたこれまでの考えから、災害時の物流サービスを維持することといった災害後の支援策が重要視されている点や、下関市港湾局長時代の経験談から、2mの盛土の上に建てた工場は被害を免れた例を挙げ、「濡れて困るものは高いところに」と具体例を基に高潮対策を軽妙な語りで紹介しました。今後、東海地域で地震が起きる可能性が高いことから、地震後の物流機能確保や操業継続の計画(BCP)を行政と連携して立案することが必要と、災害時に対する準備の重要性を説明しました。



○清掃活動in早春の渥美半島

2月18日、菜の花の咲く渥美半島で行われた環境ボランティアサークル「亀の子隊」による、西の浜清掃活動に参加してきました。約1時間の清掃を行った後、伊良湖国民休暇村でふれあいコンサートが開催され、タレントの鉄崎幹人さんによる環境をテーマとしたトークや、地元で活躍されている歌手の海に関する歌などで、楽しみながら地域の環境を考えることができました。

次回以降も続けていこうなので、みなさんも参加されてはいかがでしょうか。

☆亀の子隊に関する情報はURLをご覧ください☆
(URL: <http://www.kamenoko.org>)



○エムワンカップ開催(職場サッカー大会)

2月24日、1年に一度当事務所が主催するエムワンカップが豊橋市内で開催されました。エムワンカップとは中部地方整備局(港湾関係)の職員が集まる事務所対抗のサッカー大会です。

当職員は、このMini-wan広報誌で優勝報告をしたいと思い試合に望んだわけですが、結果は最下位という何とも悔しい結果となってしまいました。しかし、職場の仲間との交流を深める有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。今後は、地元で開催されるイベントなどにも積極的に参加し、皆さんにさまざまな話題を提供していきたいと思います。



○ソフトバレーで運動不足解消

3月7日、市内の体育館にて、豊橋河川事務所と当事務所の合同でソフトバレー大会を行いました。日頃の運動不足解消と事務所間の親睦を図る目的で行われ、18:30~21:00の2時間半の間に様々な珍プレー好プレーが生まれました。参加者の交流も深まり、とても心地のよい汗を流すことができました。

これからも機会をもうけ、心身ともに健康を保ち、試合以上に活気にあふれた職場づくりと業務に励んでいきたいです。

